

令和2年度着果調査を実施しました

令和2年8月3日

育種種苗を安定的に供給するためには、採種園の着果評価を行い、その豊凶の結果を種苗生産者に提供することが重要です。北海道育種場では、北海道森林管理局と連携して国有林採種園の着果調査を毎年行っています。今年度は、6月16日から7月10日まで17か所の採種園（トドマツ、アカエゾマツ、カラマツ、及びグイマツの4樹種）において実施しました。

複数人が双眼鏡を利用して着果の有無を確認し、豊凶度に順じて5段階（豊、並上、並、並下、凶）で評価し、各調査木の結果を踏まえて総合判定します。今年度の着果状況は、採種園毎にトドマツが「並上」～「凶」、アカエゾマツは「凶」、カラマツは「並上」～「凶」、およびグイマツは「並」～「凶」でした。

詳しい調査結果は、会議等で公表するとともに、北海道育種場のホームページに載せてあります。

(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/hokuiku/topicsr02.html>)



カラマツ採種園



アカエゾマツ採種園



トドマツ採種園

(北海道育種場)